



令和元年度 | 山形大学公開講座[人文社会科学部]



令和元年度 山形大学公開講座 「人文社会科学部」

冷戦の縁

ふち

場所

山形大学人文社会科学部
1号館1階103教室

対象

一般市民・大学生・高校生
定員30名

受講料

一般 2,000円
大学生・高校生は無料

募集期間

2019年5月14日(火)
～6月3日(月)

時代と空間の

区分を考える

令和元年
6/17 月
|
26 水

講義時間—毎回
午後6時30分～8時10分(計5回)

第1回 6.17 [月] 冷戦・冷戦後・ポスト冷戦後、あるいは戦後
— ロシアと日本の70年 —
准教授(人文社会科学部) 天野 尚樹

第2回 6.19 [水] エルベ川の向こう岸から考える
— 中世の「ヨーロッパ統合」と冷戦後世界 —
教授(人文社会科学部) 山崎 彰

第3回 6.21 [金] 冷戦下の日韓関係
— 現在への示唆 —
東北学院大学教養学部 准教授 松谷 基和

第4回 6.24 [月] 抗日と親日の間
— 冷戦下の台湾社会における「日本」イメージの変遷 —
准教授(人文社会科学部) 許 時嘉

第5回 6.26 [水] 座談会 — 冷戦の世界史に向けて —
教授(人文社会科学部) 伊藤 豊
准教授(人文社会科学部) 今村 真央

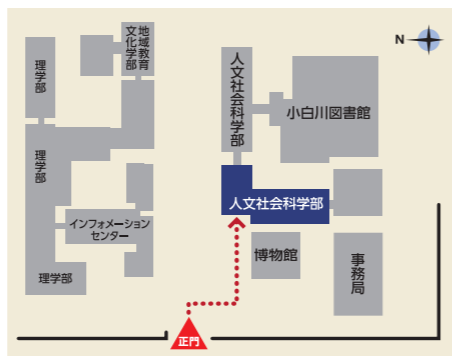
対象 一般市民・大学生・高校生 30名
募集期間 令和元年5月14日(火)～6月3日(月)
受講料 2,000円(大学生・高校生は無料)

下の「払込取扱票」に記入の上、受講料の振り込み手続きをしてください。
通信欄には、職業、年齢を記入してください。先着順に受け付け、受講証をお送りします。
なお、大学生・高校生は、メールあるいは電話で、住所、氏名、電話番号、年齢を下記の
お問い合わせ先にご連絡ください。

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12
山形大学小白川キャンパス事務部総務課総務担当(人文社会科学部)
TEL:023-628-4205 E-mail:jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学人文社会科学部/ 1号館1階103教室

大学正門に入って正面の建物です。
受付は人文社会科学部玄関にて行ないます。



【公共交通機関ご利用のお願い】

現在、山形大学小白川キャンパスでは、駐車場が非常に手狭になっております。公開講座当日はできるだけ公共交通機関、または本学シャトルバス(山形駅～小白川循環・料金100円)のご利用をお願いいたします。

シャトルバス運行時刻表

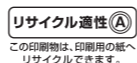
<http://www.yamagata-u.ac.jp/jp/life/etc/bus> 参照

なお、山形駅行きの最終便は18:40発となっております。
また、山交バス県庁前▶山形駅行きの最終便は、南高前バス停19:42発、山形～仙台間高速・都市間バス山形駅行きの最終便は、南高前バス停23:24発です。

この受領証は、郵便局で機械処理をした場合は郵便振替の払込みの証拠となるものですから大切に保存してください。

ご注意
この払込書は、機械で処理しますので、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。

この場所には、何も記載しないでください。



【お問い合わせ先】 山形大学小白川キャンパス事務部総務課総務担当(人文社会科学部)
電話:023-628-4205 E-mail:jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

冷戦の縁

時代と空間の 区分を考える

ベルリンの壁が崩壊してからちょうど30年がたちます。1989年11月10日のあの象徴的な出来事を記憶されている方も多いでしょう。あの壁は、何を分けていたのか。ベルリンの壁に象徴される冷戦体制は、世界をさまざまに区分していました。資本主義世界と社会主義世界があり、東と西がありました。第三世界があり、北と南がありました。モダンがあり、ポストモダンがありました。革命があり、独裁があり、解放がありました。豊かさがあり、貧しさがあり、暴力があり、平和がありました。

歴史と現在を、日本と世界を、時空間をまたいで日々研究し、教育する教員が人文社会科学部にはそろっています。本講座では、他大学からのゲストも交えて、冷戦という時代構造と空間構造を、歴史的射程から、また、ヨーロッパとアジアから、みなさんとともに考えたいと思います。世界史と自分の歴史がシンクロし、現在と未来の姿が見通せるような時間をともに過ごしてみませんか。



第1回 6.17 月

冷戦・冷戦後・ポスト冷戦後、あるいは戦後
— ロシアと日本の70年 —
准教授(人文社会科学部主担当) 天野 尚樹

世界が思想で二分されていた時代を実感して生きてこられた方もいるでしょう。ひとが思想のために生きる、いまとなっては遠い昔のことのような気もします。そんな冷戦とはどんな時代だったのか、冷戦が終わったとはどういうことなのか、そしていまはどんな時代なのか。また、冷戦という時代は、日本にとっては「戦後」と並行していたはずですが。冷戦後あるいはポスト冷戦後の時代といわれる現在、日本の「戦後」は終わったのか。冷戦構造の一方の主役であるロシア(ソ連)と日本を軸に考えます。



第2回 6.19 水

エルベ川の向こう岸から考える
— 中世の「ヨーロッパ統合」と冷戦後世界 —
教授(人文社会科学部主担当) 山崎 彰

ヨーロッパの生みの親は誰かと問われれば、「フランク帝国カール大帝」と多くの欧州人は答えるでしょう。しかしフランク帝国が作り出した「原ヨーロッパ」はエルベ川の西岸までで、東側がヨーロッパ世界に統合されたのはその後です。最初は、西側以上に純粋なヨーロッパ社会が移植されますが、現実には厳しく徐々に東西の乖離は進みます。何だか冷戦後30年間に、エルベ川の東岸(旧東欧社会主義圏)で起こっていることとよく似ていませんか?ヨーロッパの断層線としてのエルベ川と、東西間の関係を中世までさかのぼって考えます。



第3回 6.21 金

冷戦下の日韓関係
— 現在への示唆 —
東北学院大学教養学部准教授 松谷 基和

過去半世紀の間、日韓関係は紆余曲折を経ながらも確実に深化してきました。しかし、近年両国の関係は急速に悪化し、国交正常化以来、最悪とも言われる状況になっています。本講義では、冷戦を背景に形成された戦後の日韓関係が、冷戦崩壊後にどのような変化を遂げ、またそれが現在の日韓関係にどのような影響を与えているのか、歴史的視野に立って振り返って考えてみます。

世界史と自分の歴史がシンクロし、
現在と未来の姿が見通せるような時間を。



第4回 6.24 月

抗日と親日の間
— 冷戦下の台湾社会における「日本」イメージの変遷 —
准教授(人文社会科学部主担当) 許 時嘉

1949年から1987年まで台湾では、国共内戦及び東西冷戦を背景にして、長期戒厳令を通して国民党の権威主義的政治体制が発足しました。国民党政府は、一早く統治権威を確立するために、かつて日本の被植民者だった台湾人民に中国化教育と抗日史観を徹底的に導入し、急進的な脱日本化を行いました。一方で台湾と日本は、冷戦下の資本主義陣営に属する同胞として友好関係を継続し、文化面、経済面の交流が続きました。日台の政経関係が錯綜する冷戦期において台湾社会で「日本」はいかに語られていたのでしょうか。本講演は冷戦下の文芸・文化状況から台湾社会での「日本」イメージの移り変わりを考えます。



第5回 6.26 水

座談会 — 冷戦の世界史に向けて —
司会：教授(人文社会科学部主担当) 伊藤 豊
准教授(人文社会科学部主担当) 今村 真央

冷戦は、米ソ間の対立を軸としたグローバルな現象となりましたが、地域によって異なる体験をもたらしました。米ソ間では冷たい戦争であったものの、韓国やベトナムでは「熱い戦争」が起きました。冷戦の世界史は、どのように書かれるべきなのでしょうか。最終回は、ヨーロッパ、ロシア、東アジア、東南アジア、北米での様々な冷戦経験を比較し、冷戦の全体像を模索します。伊藤豊(アメリカ社会史研究)と今村真央(東南アジア研究)が司会を務め、発表者全員による座談会の形で討論します。

02		払込取扱票				通常払込料金 加入者負担	
口座記号番号						金額	
022607		92478		千 百 十 万 千 百 十 円		2000	
加入者名		国立大学法人山形大学		料金		備考	
通信用欄		*「冷戦の縁：時代と空間の区分を考える」申込書 ※この払込用紙は、1人1枚をご使用ください。(人文社会科学部) ○職業をお書きください。() ○年齢をお書きください。() ※払い込み済みの受講料は返金できませんのでご注意ください。 ※個人情報の利用について 提出いただいた書類の個人情報は、本公開講座の参加に関する手続きのみに使用し、第三者に開示・提供・預託することはありません。ただし、ご承諾いただける場合は、今後の公開講座やセミナー様のご案内を本学からお送りする場合がございます。□ 承諾する □ 承諾しない (いずれかをチェック願います)					
ご依頼人		おなまえ		日附印		料 金	
おとところ(郵便番号)		()		(電話番号)		備考	
裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行) (承認番号仙第8982号)							
これより下部には何も記入しないでください。							

振替払込請求書兼受領証							
口座番号		022607		通常払込 料金加入 者負担		金額	
		92478		千 百 十 万 千 百 十 円		2000	
加入者名		国立大学法人山形大学					
おなまえ		ご依頼人					
料 金		日 附 印					
備考							